シリーズ 第23回

中谷の南朝秘史②

―近衛経忠公の最期―

近衛経忠公（一三〇二―一三五二）は、後醍醐天皇の時に二十三歳の若さで右大臣に昇進し、後に関白左大臣となった貴族です。近衛家は藤原家の嫡流にあたり、公家の家格の頂点に立つ家柄ですが、経忠公は藤原氏一族の代表者である藤氏長者も務めた人物です。

中谷に伝わる伝説では、南北朝時代に経忠公は一門の花山院師賢卿・法大寺為忠卿を連れて、旧知の明憲法印を頼って弘秀寺に入り北朝打倒を呼びかけていましたが、北朝方に発覚し敵の襲来を受け、経忠公らは弘秀寺から追われて光岡新兵衛の邸園に逃れ、巨石の上で自刃したといい、これを田中惣兵衛が埋葬した場所が現在の関白塚であるとされています。

近衛経忠の墓（中谷・近衛殿）

中谷には経忠公が敵に追われたという「追われ坂」、法大寺為忠にちなむ「法大寺」の地名や、経忠公が自刃したと伝えられる「腹切岩」、経忠公らを祀る中谷神社の合祀前の名前でもあった「老男山」は経忠公が敵に追い落とされたことにちなむといわれるなど、ゆかりの地名が多くあり、昭和八年五月には経忠公の後裔である小林柴香という女性が墓参し、小林家の系図別伝略記に経忠公が中谷で亡くなったことが書かれているとも言われています。

法大寺為忠の墓（中谷）

歴史に記録されている近衛経忠公は、北朝の光明天皇からも関白に任ぜられましたが、出奔し南朝方に赴いたものの志を得ず再び京都に戻り、ここでも冷遇された経忠公は藤氏長者の立場を利用して関東を中心に各国の藤原氏に呼びかけ南朝・北朝とは一線を画す第三勢力の樹立を企てましたが（「藤氏一揆」北朝との和睦工作を進めるための動きとの見方もある）、失敗に終わるなど複雑な立場を歩み、最後は南朝の行宮がある吉野の賀名生（奈良県五條市）に赴き、同地で正平七年（北朝年号観応三年・一三五二）八月十二日に水腫のため五十一歳で死去したとされています。

腹切岩（中谷・大成）

洞院公賢という貴族の日記『園太暦』目録にも、正平七年に「八月十三日、堀川前関白経忠、昨日薨逝事、五十一」の記事が見られますし、園太暦と並ぶ南北朝時代の一級史料と言われる『師守記』には、当時の大外記（朝廷の書記官）中原師茂が貞治三年（南朝年号正平十九年・一三六四）に坊城俊冬からの経忠公の経歴について問い合わせの返書で、観応三年八月十二日に吉野で亡くなったことが書かれ、『尊卑分脈』にある当時の近衛家の系図や朝廷の職員録ともいえる『公卿補任』にも同様に書かれています。

江戸時代の元禄四年（一六九一）編纂の『作陽誌』には中谷上村に「昔、国司近衛某此の地に逝く。古墳有り。」と書かれており、近衛某が経忠公を指すのかどうかはわかりませんが、近衛家関連の史跡の存在が古くから中谷に伝えられてきたことがわかります。

今となっては事実関係を実証することは難しいですが、地元に残された記録から、中谷が南朝方と深く関係していたこと、経忠公本人ではなくても、経忠公の側近か近親者等が経忠公の使いとしてやって来たことや北朝方の襲撃などは事実としてあったのかもしれません。

参考資料：『鏡野町の文化財』、『鏡野町史』民俗編、『大日本史料』、『師守記』、『国史大辞典』、『作陽誌』、過去の調査資料等

お問い合せ先
生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

〒708-0421 岡山県苫田郡鏡野町井坂495 鏡野町情報広報課 TEL0868-52-2212
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/